

「ばあ」をする アンパンマン

ゆきや(2021、05、24)



なんとなく元気のないアンパンマンが来ました。

元々は手で顔を隠して、お腹を押すと手が下がって、「ばあ」をするというのですが、今両手は拳がらず、だらんと下がったままです。

調べた結果、バンダイの「アンパンマン みてみて ばあ！」と分かりました。

バンダイは日立製作所と共同で、生まれたばかりの赤ちゃんの視覚、聴覚を研究し、「ベビラボ」として商品化しています。(同社ホームページの画像)

この「みてみて ばあ！」の手の大きな動きも、3か月以上の赤ちゃんに良い刺激になるのだそうです。このおもちゃの特徴は、

- ①赤ちゃんがアンパンマンのお腹を押すと、手が下がってアンパンマンがパッと顔を出す。
 - ②脚を握ると、「カサカサ、シワシワ、パリパリ」と音がする。
 - ③足の先を噛む事で「歯がため」が出来る。
- などなどの機能が備わっているという事です。

ところが、肝心の手が動かないのです。

両方の腕は拳がっていて腹を押すと下がる筈ですが、下がったままです。

赤ちゃんが手に持ち、口にするものですから、電池、モーターなどは使われていません。



縫い目を解いて、出てきたのは写真のようなメカでした。

中央下の球形がお腹、左右の2本の細長い袋が、両腕に相当します。球を押すと空気がチューブで両腕の袋に送られて膨らみます。

この時、両腕は若干動きますが、「ばあ」をする程の動きではありません。

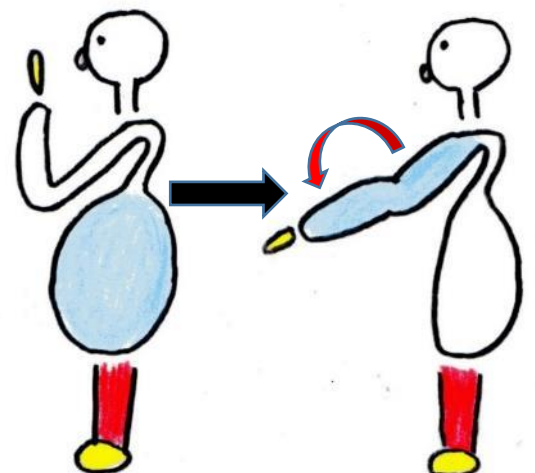
何よりも、両腕はもっと上に拳がっていたのではないのでしょうか？

「ばあ」をするためには、両腕の袋は、元々図のように90度以上屈折していて、空気が入った瞬間、ピンと下に伸びたのでしょう。

何が、両腕を上屈折させていたのか？

ぬいぐるみの中を探しても、他に部品は無いようです。

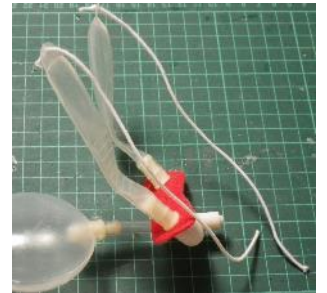
この単純なメカで、そんなことが出来るのでしょうか？





両腕の袋には、謎の痕跡、みみずばれの様な数本の筋がありました。袋に付けられたこの筋が何かの役目を果たしていたのかも知れません。あるいはこの筋で両腕が曲げられていて、それが劣化して、下がってしまったのでしょうか？

いずれにせよ、元の状態を取り戻すのは無理なようで、考えたのはまことに姑息な方法です。腕の袋の先に小穴があったので、そこにゴム紐を通して、後ろに伸ばしました。



このメカを、アンパンマンの体内に戻す時に、ゴム紐を強く伸ばして腕を吊り、首の後ろで結びました。

これでアンパンマンの両腕は一応吊り上げられる事になりました。(不十分ですが)

* * *

後日談①

返却の時にお母さんの話を聞く事が出来ました。

なんと、洗濯機に入れてしまったのだそうです。お母さんの記憶ははっきりしませんが、その時に自動乾燥だったとすれば、その熱で腕の屈曲部が伸び切ってしまったのかも知れません。

後日談②

研究用に、壊れていない実物を入手できました。切開して見て分かったのは、腕が相当しっかり湾曲している事でした。(青丸)



元気のいいアンパンマンの手の動きです。

